

鳴り砂

2-064号 (通巻243号) 2013年5月20日

発行 みやぎ脱原発・風の会

(連絡先) 〒981-8007

仙台市泉区虹の丘3-5-13 篠原方

/fax 022-373-7000

<http://miyagi-kazenokai.com/>

《郵便振替口座》 0220-3-49486

会費 ・ 3,000円/年

賛同会費 ・ 1,000円/年

5月12日、仙台市の戦災復興記念館で「2013みやぎ脱原発・風の会 会員のつどい」がおよそ25人の参加で行われました。現在、風の会の会員は約50名ですが、普段はなかなかゆっくり話し合う時間がないなかで、やはり1年に一度くらいは顔をあわせて風の会の方向について議論するとともに、会員以外でもこの間一緒にとりくみできた仲間の皆さんとも意見交換をすることを目的に行いました。

まず、事務局から「この1年の活動報告、会計報告、鳴り砂アンケート報告」があり、「子どもたちと妊産婦を放射能から守る体制の確立を求める請願書」が92団体でだされ宮城県議会で全会一致で採択されたことや、「11.3秋のつどい」や「3.16みやぎアクション」などネットワークを形成して実現したことなどが報告されました。また会計では、震災以後、風の会への会費・カンパが激増(2010年16.2万円 2011年約80万、2012年も約50.2万)し、会員数も1.5倍に増えているというので、風の会への期待が高まっている現状が報告されました。

次に「今後1年間の風の会の活動方針について」事務局から提案があり、【運動課題】として 1) 女川原発再稼働を止め、廃炉をめざすとりくみ 2) 福島原発事故による放射能被害へのとりくみ を行うこと、また【組織課題】として 1) (主に県内) ネットワークの形成 2) 風の会の組織の拡大・発展 を目指すことが提案されました。また、鳴り砂・HPともリニューアルして、発信力を高めることも提起されました。

この議論の中で「『世代をこえた連携』といっても、どうやったら若い人がデモなどに参加するのか。若い人たちが何を考えているのか分からない」との意見があり、それをうけて「いや若い人たちも、いろんなイベントやシャボン玉フォーラム、自然エネルギーなどの方には参加しているので、決して無関心というわけではな

い」「デモについてのインタビューの映像があるので、それが参考になる」「言葉は悪いが“面白い”企画が必要では」などの意見がでました。

最後に、参加者の自己紹介と今後の抱負、風の会への要望などを一人一人語って頂きましたが、これがけっこう盛り上がり、予定時間を1時間もオーバーしてしまいました。ごく一部ですが紹介すると、風の会への

要望としては「もっとフェイスブックなどのソーシャルメディアを駆使して、若い人の力を借りるようには」「いろいろ本を読んではいるが、原発のことは難しいので、講演会というよりは、やりとりできる学習会などやってほしい」「疎開裁判は高裁で却下されたが、福島では閉塞感が強いとの声を聞くので、具体的な協力をお願いしたい」「いろんな運動が起こってはいるが、まだ面にはなっていないので、媒体となってつなげてほしい」などです。また、意見としては、「東北

風の会 会員の集い
熱心な意見交換が行われた

電力の電気料金値上げについての公聴会で発言したが、コストの面から攻めるのは有効」「宮城県などに申し入れするときに、人数が少ないとなめられるので、できるだけみなさん参加してほしい」「仙台市の防災計画に放射能対策をキチンと入れさせる」「被災した原発である女川原発を動かすなんてもってのほか」「労働組合としても被ばく労働は考えなくては」などがありました。

総じて、参加された方はみなそれぞれの持ち場で原発・放射能被害と真剣に向き合い、また活動されてきた方々なので、一人一人の発言に説得力があり、それをお互いに交換できたことはとてもよかったと思います。この場ででた風の会への要望にどれだけ応えられるかが私たちに問われていることを肝に銘じて、今後1年間頑張っていきたいと思います。

(事務局 舘脇章宏)

ふくしま 集団疎開裁判 第二審 4・24の 『肩透かし』 決定

小浜 耕治

2011年6月、郡山市の子どもたち14名が裁判所に放射能被害からの救済を訴え、「年間1ミリシーベルト以下の安全な場所で教育せよ」と市当局への仮処分を求めたのが「ふくしま集団疎開裁判」です。同年12月福島地裁郡山支部で却下の決定が出されたのち、仙台高裁に抗告、2012年10・1、11・26、2013年1・21の3回、異例の長きにわたって審尋がなされ、その都度「仙台アクション」としてデモ・集会を行ないました。その後、年度を超えて4・24になりやっと決定が下されました。結果は却下です。子どもたちのいのちを守って欲しいという訴えは、ふたたび退けられました。

この間、東京でも郡山でも、活動が継続されていました。仙台でもイベントや街頭での、チラシ・リーフレットの配布を続けてきました。街頭では、ご自身の戦時中の経験に照らしぜひ疎開を実現して欲しいと語ってくださる方、子どもを持つ福島の方が深く心配されている様など、たくさんの人との出会いがありました。活動を重ねるごとに反応がよくなることも感じましたが、これは、疎開裁判がいかに知られていないかの証明でもあります。また、多くの人からカンパをいただき、そして配布活動に協力してくださるあたたかい手を頂いてきました。

結論は却下ではありましたが、仙台高裁は子どもたちに対する健康被害を認定しました。「チェルノブイリ原発事故によって生じた健康被害、福島県県民健康管理調査の結果、現在の郡山市における空間線量率等によれば、子ども



たちは、低線量の放射線に間断なく晒されており、これによる、その生命・身体・健康に対する被害の発生が

危惧され、由々しい事態の進行が懸念される。この被ばくの危険は、これまでの除染作業の効果等に鑑みても、郡山市から転居しない限り容易に解放されない状態にある。」と決定文に明記しています。

にもかかわらず、郡山市には子どもたちの生命・身体・健康を守る責任はないと言うのです。「もっとも、中長期的には懸念が残るものの、現在直ちに不可逆的な悪影響を及ぼす恐れがあるとまでは証拠上認め難い。」というフレーズが挟まれています。もちろんこれは、弁護団声明で「これまで100万人に1人とされていた小児甲状腺がんが、僅か3万8000人の余りの検査で既に3名確定診断され、7名が強く疑われている。もはや、危険は中長期的なものではなく、今現在、健康被害について不可逆的な悪影響を及ぼす…」などと反論されています。さらに「避難したいなら自主避難すればいい。それを妨げているものはなく、避難先の自治体での教育は提供される。～として、却下の結論に導いています。弁護団声明では「郡山市は子どもたちに対して教育を実施する憲法上の義務を負うが…私たちの主張には、全く答えることがなく、いわば『肩透かし』をした。」と述べています。

裁判と市民による活動で、裁判所という公的機関から「放射線被曝による健康被害の認定」という成果を引き出すことはできました。しかし、行政機関の帰還勧奨や大手マスメディアのサボタージュにあい、子どもたちを救うまでもう一步届きませんでした。もちろん、ここで諦めるわけにはいきません。被害認定を一里塚として、さらに市民の力を集め、みやぎも含めた放射能被害に曝されるすべての子どもたちを、守っていかなければなりません。また、司法の場であったからこそ証拠という形で陽の目を見て、公に認めざるを得なくなったわけで、裁判の継続は必要でしょう。体制を整えて、今後について、みなさんと共に考えてゆける場が持てればと思います。よろしくお願いします。

(ふくしま集団疎開裁判・仙台アクション事務局)

ふくしま集団疎開裁判ブログ
4・24決定に対する弁護団声明
4・24決定全文と解説

<http://fukushima-sokai.blogspot.jp/>

<http://fukushima-sokai.blogspot.jp/2013/04/2013424.html>

http://fukushima-sokai.blogspot.jp/2013/04/blog-post_29.html

「フタバから遠く離れて」 仙台上映会

朝倉 美幸

御陰様で上映会当日は130人余りの方に御来場頂きました。

震災以降、多くの方々が福島から仙台へ避難を余儀なくされているが、その現状を私達仙台市民の殆どが知らずに過ごしている。彼等は今どんな心持ちでこの街に身を寄せ暮らしているのか？。“直に触れたい”という欲求が私の胸の内にずっと在った。映画に映る”双葉町”を通し、地域や境遇の垣根を越え、夫々が原子力産業の在り方を考え、又、福島と宮城の人々の心の交流のきっかけになればと、この上映会を企画した。

上記の主旨もあり、上映会は本編鑑賞後、午前午後共に、参加者同士のトークの時間を設け感想等を思い思いにお話頂く事にした。

双葉町、郡山、南相馬、福島市等から仙台へ避難されている方、福島が生まれ故郷の方、市外から来方、そして仙台出身、在住の方々が会場に残り、まずは福島の方に映画の感想や今抱いている思い等をお話頂いた。その発言を受け、仙台の方々からも映画の感想、今の思い、意見が次々に飛び出した。その中で、双葉郡の山田が故郷という男性は、双葉町より更に汚染されてしまった故郷の惨さを告発してくれるものが何も無いと資料を持参し私達に訴えた。

映画や報道、話題にならなければ生まれ育った故郷は忘れ去られ、刻一刻と町が死んで行く。現状からの悲痛な叫びだった。今回の映画や福島の方の現実の声を初めて見聞きしショックを受けたという仙台の方も多くいらっしまった。自分の住む宮城県南部の汚染の酷さを目の当たりにし、国や行政のひいた「線」に苦しむ方も。山田の男性が訴える様な場所が福島に限らず点在している事も、忘れずに考えて行く必要がある。「どちらが酷い状況であるかという悲慘を競うのでは無く、広域の汚染を認めた上でこれから具体的にどうしていくのか、夫々が考え声を挙げ行動して行かなくては前に進まないのでは無いか」という仙台や南相馬の方の声も上がり、地域の垣根を越え、本音を聞き合う大変意義深い時間となった。

終演後の交流会、アンケートに書かれた夫々の思い

を読むと、この映画を、当事者として見る人、映画として見る人。記録とする人、告発とする人、真実とする人、現実とする人...様々な印象が浮び上がり大変感慨深かった。“皆が双葉の行方を案じ、次作を待望んでいる”事が夫々の思いの中で一つ合致する部分だろう。それを待つ間に、夫々が出来る事は何か。現実生きる私達が、その現実に直に触れ、知ろうと行動に表す一歩が今必要だ。上映会がそのきっかけになれば嬉しい。私自身も「次」があるように繋げていければと思う。

震災以降、原発事故で漏れ続ける放射性物質の汚染について。誰も立証の出来ぬまま「安全か否か」が机上で議論され、当事者である筈の避難者は置去りに再稼働の是非が決められていく。掛替えの無い故郷、命さえも「数」で区切られて行く。それを空目に進み行く”私”の日常に、ずっと強烈な違和感を覚えていた。原発事故は”福島”で区切る事は出来ない、54基の原発を抱えるこの国の大きな社会問題であり、誰もが尊ぶべき命の問題である。「フタバから遠く離れて」は原子力産業に翻弄される双葉町に生きて来た人々の”生活”を静かに捉え、原発問題の根底に在る”人は如何に生きるか”という命についての根源を問われるような映画だった。この映画を通し、その根源について夫々が思いを馳せ、“これから”を考えるきっかけになればと願う。我々は今、大きな選択をする分岐点に立っているのではないだろうか。あれから二年、呆然と立ち尽くしたまま。もう後戻りは出来ないし、待ってはられない。

(「フタバから遠く離れて」仙台上映実行委員会)



「さようなら原発IN石巻2013」を開催して、 原発・再処理に思いをはせました

佐藤 清吾

4月28日に石巻の中央公民館で、一昨年の福島原発事故以来二度目となる「さようなら原発IN石巻2013」を開催し、のべ300人の来場者がありました。去年は3月25日の開催でしたので、今年は約一ヶ月の遅い大会となり丁度ゴールデンウィーク前半の中日と言う事もあり参加者が少ないだろうとの思いが有りましたが、開けてみれば矢張り関心の深さ故か、午後の講演会時には設営した椅子が満席になるほど来てくれました。講師の先生が国会事故調の崎山比早子さんだったことも有ってか、参加者の真剣な聴講振りが見られました。講演後の質疑応答はとても活発で時間制限を一杯に使っていました。

常に思うことですが今、国や県、電力の言う事が全く国民に信頼されて居ない事です。こんな悲しい社会って一体誰が作り出したんでしょう。国策に阿る御用学者や電力の出す金に群がる政治家が作った国ですがその政治家を選んだのは紛れもなく国民なのです。その政治家に裏切られて苦しむのは国民なのだ、としたら選挙の大事さが解る筈です。福島があれほどの原発を受け入れたのは福島選出の政治家なのですが、この事故以来彼らにその責任について言及した事を聞いた事がありません。言い換えれば彼らほどずるい人間はいません。そして一方受け入れ先の自治体ほど無能な者はいないと言う何よりの証明でもあるのです。安易に受け入れて交付金でしか行政の財政が回らないというのは無能振りを全国に知らせていると言うことになるのです。

国と電力は立地自治体を麻薬患者に仕立てることで容易に原発を作る事が出来るうまみを覚えたとし、受け入れ側は何の苦勞もなく行政の運営が出来ますが、この産業は時間の経過と同時に衰退していくのです。東電の情報開示ほど曖昧で信頼に欠けるものはありま

せん。一昨年の6月に汚染水の完全停止を宣言したがその後一向に海への流失は止まらず今年の3月までに17

兆ベクレルもの汚染水を流していたことを東京海洋大が論文で発表しましたが、東電はそれを無視して自社の調査結果として7100億ベクレルのみを漏出を発表しています。今度は原子炉の下に流入する地下水として日量400トンの水を海に流しますから理解してくださいとの事ですが、是を信ずる人が未だいると思っているとしたら無神経も甚だしいかぎりです。六ヶ所の再処理工場の稼働も日程に上ったが是とて現実的には難しい話です。国は先ず原発の稼働の前に国民の信頼回復に勤めるのが筋と言うものではないでしょうか。

原発の排出基準なんていい加減なものでこれ以上いくら努力をしても一杯のところを基準にしているわけでも排出しても無害だという基準でもないのです。只これ以上経費をかけずに済むのが基準の様な物だからこれほどいい加減なものはないのです。今度の指定廃棄物の基準もおなじで通常100ベクレルを超えたものの処分は六ヶ所の処分場に持ちこまねばならないのに、広域処理という名目で全国に拡散してます。その基準値が8000ベクレルという高い数値な事を見ても解ります、六ヶ所はトリチウムやクリプトン85などの核種を海に空に膨大な量を撒き散らかすのです。それが津軽海峡を通過して下北半島を回り三陸海岸を洗いながら千葉の房総半島まで南下するので三陸の海は核物質で汚染されてしまいます、ですから絶対に再処理工場は稼働させてはならないのです。



((「さようなら原発IN石巻2013」実行委員長)

鳴り砂 アンケート

ありがとうございました

鳴り砂発送について

- ・両方（鳴り砂・別冊）
- ・郵送希望 16人
- ・鳴り砂だけ郵送希望 18人
- ・HPで閲覧するので送付必要無し 31人
- 合計 65人

ご意見・ご要望より

インターネットも見れるのですが、アナログ派なので、紙の媒体の方が好きです。今後も、粘り強く、脱原発、頑張っていきましょう。

・長野は宮城から遠く離れていますが、時々首都圏で行なわれる脱原発の集会・デモに参加してきました。鳴り砂は、現地の具体的な情報を知る上で、たいへん参考になります。

・ケイタイも所有せずパソコンも使えない生活で、集会に参加できなくとも読み続けたいと思っています

・HP更新や集会案内などをニューズレターなどで配信いただくと嬉しいです。フェイスブックでも良いかもしれせん。会の方々とダイレクトにつながっている感じが大切かと思っています。

・行動することがだんだんむずかしくなり、会報で新しい知識や行動を知りできるだけのことは続けたいと願っておりますので、今後ともよろしくおねがいします

・ねばり強いご活動に元気づけられています

・原発問題は理解するのに非常に難しく、私も本を何冊か読みましたがなかなか理解できません。時に素人にわかりやすい勉強会等開いて頂ければ助かります。

・金曜デモは34回を数え、今なお90名の参加とはすばらしいですね。Iさんの福島調査への見解は説得力を感じます。皆さまのご健闘を老骨より祈るばかりです

・所属している会の人たちに読んでもらっています。回したりしているようです。いずれネット上で読みますが、今年いっぱいくらい郵送をお願いします。

・女川原発と六ヶ所工場について、事故の有無に関係なくその現状について、継続的に記載してほしい。又、両者の基礎データ（配管の量km、日常的な排出放射線の量など）、通常の工場とは異質な特徴を時々（年1回位）記載あれば途中からの読者には助かります。

・インターネットしていないため「鳴り砂」をいつも楽しみに拝見しております。出来るだけ集会やデモにも参加していきたいと思っています。

・石巻の友人達の多くは女川原発への不安を感じながらも行動できずにいるようです。仙台の方が幾らか動きやすいので

前回の「鳴り砂」発送時に、リニューアルにあたって読者の皆さまにアンケートを送らせていただき、郵送などで62名の方からお返事を頂きました。皆さまありがとうございました。今後も郵送を希望するか、あるいはHPで見て頂くかなどお聞きしたことの集計と、ご意見・ご要望の一部を掲載させていただきます。又、郵送の切り替え（郵送する・しない）はいつでも可能ですので、随時ご連絡ください。今後とも鳴り砂をよろしく願っています。

はないかと思っています。女川の人達は以前にも増して原発に頼るのではないかと案じております。貴会が貴重な情報源です。

・昨年、『鳴り砂』で卒論を書いた学生がなんと修士課程に進学、今後も宮城の反原発運動研究を続けたいそうです

・1年に4回位でもいいのかと思います

・「鳴り砂」たゆみなくお送りいただき、初歩的な基礎知識もないわたしは、実に多くのことを学ばせていただきました

・自民党政権になって、再処理路線にますます拍車がかかりそうです。一度動かしてしまったら、とんでもない高レベルの廃棄物が出てしまうので何とかストップさせたいと思います。東京電力はまだ福島第一5.6号機と第二原発を稼働させるつもりなのですが。

・これまでずっと郵送していただきありがとうございます。専門的なことは読んでも難しいところが多いのですが、原発に関わることを、どのように見て、どうしていこうとしているのか、どういうことがはっきりしなくて、どんなことが問題なのかを伝える鳴り砂はマスメディアと違った価値をもっていると思っています。

・いつも「鳴り砂」本誌、研究グループの別冊、集会情報などをお送りいただきありがとうございます。1988年の秋に、仙台市と女川町を訪れ、篠原さんはじめ今は亡き阿部宗悦さんたちにお会いし、以来、「鳴り砂」を送っていただいております。充実した内容の紙面を受け取る側としては、すぐにどこへでも持って出かけられて楽でした。

・私はヒロシマの原爆の時、日赤の救護員として応召されました。以後50年近く病気で苦しみましたから、放射能障害が特に気になります。お医者さんの対応など気にしています。

・内容が読みやすく理解できる。専門分野（研究グループ原稿）の方々の資料も有り私たちにとって信頼できるデータで、とてもありがたい資料です。

今年も女川・東通原発廃止の株主提案 18年 連続 株主235名・318,000株で！

脱 原 発 東 北 電 力 株 主 の 会

3月31日（日）、脱原発東北電力株主の会は、昨年より、「資格審査」はぎりぎり30日の提案日まで締め込の提案株主と昨年夏議決権行使書を閲覧・謄写して賛

同を確認した株主約880名に、「ご協力をお願い」今回、「個別株主通知期限切れ」はなかったのです
「株主提案議案」「合意書」「株主提案マニュアル」が「期間要件未達」や、「合意書」だけで「個別株主
「個別株主通知申出書及び送付先指定書」「返信用封通知未着」「本人確認書類なし」の方達等がいて、最
筒」を郵送しました。最終的に235名・318,000株の共同提案となりました

（去年は261名・354,000株）。

今年も、全国証券業協会の共通「個別株主通知申出書」に「送付先指定書」を添付し、各株主さんに証券会社等に「個別株主通知」の手続きをしてもらい、大半の証券会社からは直接事務局に「受付票」を送ってもらいました。ところが、証券会社によっては事務局に返送せず株主さんに「受付票」を送付したり、自社の「申出書」でないと受け付けられないと言われたりしました。株主さんも、証券会社が違っていたり、記載もれや届け出印なし等があり、事務局は1ヶ月間、32通もの「お願い文」等を郵送するなどの作業対応に追われました。

新しい株主さんも60名ほど増え、最終的に263名の方から賛同を頂き、4月15日（月）と22日（月）に「合意書」「受付票」を仮提出。ところが、東北電力には「証券保管振替機構（ほふり）」から個別株主通知が到着済なのに、本人確認書類（受付票等）の提出

のない株主が12名いることが分かり、急遽「お願い文」を郵送し、25日（木）に株式課交渉を行い、受付票等の到着を待って貰うことにな

4月30日（火）午後1時半、東北電力本社で株式課に「株主提案議案」「株主提案権行使請求書」等を提出・受理され、午後2時半から県庁で記者会見を行いました（5名参加）。提出の様子等を県内全てのテレビ局が取材し、夕方の県内ニュースで放映され、『河北新報』等でも報道されました。

昨年の株主総会には「浪江・小高原発建設計画の白紙撤回」を提案したものの、取締役会の反対で否決されましたが、福島県内の多くの自治体が賛成してくれました。それが今年の3月28日の計画断念の決定に繋がりました。

今年の株主総会では、「女川原発の廃止」「東通原発の廃止」「送電網の全国一本化」の3議案と、事前質問書を基に、「原発再稼働中止 - 廃炉」を経営陣に迫って行きます。

（空）

東北電力(株)第88回定時株主総会

6月26日（水）午前10時

電力ビル7階電力ホール





今日は、昨日までと打って変わっての上天気。

例年、女川の5月は風が冷たい。梅雨時には、石巻は晴れていても、国道398号線を折立から過ぎたあたりで、次第に曇り空へと変わってくる。そして仮設の部屋の中は寒い。

自民党は、原発再稼働を公約に掲げ、他国へ原発を売り込み、福島を検証も反省もなく、無責任極まりない。

女川でも東北電力は、防潮堤の高さを約15m（O.P.+約29m）にかさ上げし、H28年3月完了の予定で、再稼働へのやる気は充分。

震災より、2年2カ月が過ぎ、5月13日～17日の日程で、「住民・議会懇談会」が24カ所で行われました。私は、江島、高白、小乗、指浜、御前、尾浦・竹浦、出島・寺間、稲井バイパス仮設西、女川一小仮設の8カ所を回りました。江島に行った時、深い霧の中、原発を過ぎた小屋取沖で、レーダーが利かなくなり、四方八方見えず、一時船を停泊。津波の時、明りのない海上で、一泊、二泊した人達の心細さ、不安を感じました。

私は、植樹、緑化にも取り組んできましたが、この度、「女川の緑を考える連絡協議会」が発足しました。これまで「桜守りの会」「林業振興会」「花卉同好会」「ネイチャーガイド協会」など、自然を愛し・育む会がありましたが、それらの団体が横の繋がりをもち、女川の復興・緑化に寄与していきたいという主旨です。

5月15日には、女川町産業振興課、復興推進課、生活支援課、そしてUR都市再生機構にも会発足の申し入れをしてきました。

遅々とはありますが、確かな動きにしていきたいと思っています。

また、5月25日は植樹もします。女川では植える場所の確保が難しいので、これはとても喜ばしい一歩です。

皆さんも、女川に来て、見て、そして町民の人と話してください。（2013.5.18.）

**植樹日程 5月25日（土）9時～
女川奥清水3号橋 集合
小雨決行**

（女川町議会議員）

【原発推進官僚のリアリティとは？】

朝日新聞連載「プロメテウスの罠 原発を維持せよ 8」（2013.4.21）で、核燃料サイクル路線の推進を「いったん立ち止まり、国民的議論が必要ではないか」（作成者名なしの「19兆円の請求書」という怪文書？出典とのこと）という2004年3月の経産省若手官僚による見直しの動きに対し、当時原子力政策課長に就任した柳瀬唯夫氏が「現実的に結果を出すのが行政官だ。じゃあ、使用済み燃料はどこに持ってゆくの。リアリティがない」と疑問を感じた旨が記載されています。

筆者はこの柳瀬氏の言葉「リアリティがない」に、思わず笑ってしまいました。官僚として、目の前の問題に答えを出す“試験勉強”には長けているでしょうから、実務的な（現実的に結果を出す＝時に詭弁？）問題解決能力はおそらく高いと思いますが、問題の背後・根底にまで踏み込んで“真の解決策”を導

き出すのは、縦割り行政遵守・越権行為禁止という彼らの行動規範（福島事故直後の「SPEEDI（放射性物質の拡散予測）情報」提供に対する“度を越した”消極的対応が象徴的）からしても、手に負えないものと思われ（原発推進に限らず、水俣病行政などでも顕著）。

核燃サイクル問題の「リアリティ（現実味）」とは、「トイレなきマンション」の原発を前提（試験問題）として、使用済み燃料の処分先を決める（答え）ことでなく、使用済み燃料・高レベル放射性廃棄物問題の解決見通しが無いまま、原発で使用済み燃料が生み出され、大量に貯まり続け、将来世代へ責任・負担が先送りされているという実態を、リアルに見据えることです。プルサーマル問題も然り、高速増殖炉での使用見通しが確立されないまま、先行・見切り発車してプルトニウムを再処理で取り出し続けてきたツケの“官僚的答え＝彌縫（びぼう）策”でしかありません。

～～最近、気になる うごき 2～

福島事故後の現実をキチンと見据え、原発再稼働を取止め（安全性だけでなく将来世代の観点からも）、即座に廃炉に向かうことこそが「リアリティ」のある解決策です。

追記：上記連載9（4.22）では、当時の青森県六ヶ所村長・古川健治氏が2004.6.24の柳瀬氏訪問を「覚えていない」とし、同10（4.23）では、当時の福島県知事・佐藤栄佐久氏が柳瀬氏を「知らない」として『彼ら、顔が見えないんです』と語ったと記されています。また、水俣病関連記事（5.1）では、患者・田中実子さんの家族が今年3月に環境省担当者に窮状を訴えた際に『（話を）聞く』と言われたが、その担当者は4月に異動し『役人はこころ変わる』との感想が紹介されています。役人の「リアリティ」＝その場しのぎの解決策・詭弁など、ほとんど意味を持たないことは明らかです。

< 2013.5.4記 >

（仙台原子力問題研究グループ I）

インフォメーション

・第39回&第40回

大飯を止める！女川再稼働するな！ 子供を守れ！
 汚染はいらない！みやぎ金曜デモin仙台
 (略称：脱原発みやぎ金曜デモ)

https://twitter.com/miyagi_no_nuke
<http://twipla.jp/events/27716>

日時 5月26日(日)14時集合
 錦町公園

14時30分デモ出発(日曜デモ)

・5月31日(金)

18時集合18時30分デモ出発

勾当台公園野外音楽堂

主催 みやぎ金曜デモの会

(代表 西)

(090-8819-9920 電話は20時~22時まで)

email:miyagi.no.nuke@gmail.com

・「子どもたちを放射能汚染から守り、 原発から自然エネルギーへの転換をめざす 女性ネットワークみやぎ」結成一周年のつどい

日時 5月25日(土) 13:30~15:30

会場 仙台市宮城野区文化センター

コンサートホール(入場無料)

第1部 報告 女性ネットみやぎ

講演 「私はなぜ原発に反対するのか」

鹿野文永さん

(元鹿島台町長・女川原発の廃炉を求める会代表)

第2部 ナターシャ・グジー コンサート

~水晶の歌声とバンドウーラの可憐な響き~

予定曲「キエフの鳥の歌」「いつも何度でも」

「秋桜(コスモス)」「アヴェマリア」ほか

連絡先 TEL/FAX 022-215-3120

・劇映画「渡されたバトン~さよなら原発~」

日時 5月25日(土)~6月7日(金)

11:00 13:20 15:40 18:20

桜井薬局セントラルホール

前売1000円 当日大人1800円

連絡先 みやぎ上映実行委員会

・福島原発事故の厳正な捜査と起訴を求める大集会 - 福島のかげを聞いてください -

日時 5月31日(金)13:30~

会場 日比谷野外音楽堂

16:00~東京地検前「激励行動」

17:30~東電本社前「抗議行動」

主催 福島原発告訴団080-5739-7279

・6.2つながろうフクシマ! さようなら原発集会

日時 6月2日(日)12:30~

会場 東京芝公園23号地

主催 「さようなら原発一千万人署名」

市民の会 03-5289-8224

同時アクション 原発ゼロをめざす中央集会

11:00~ 東京明治公園

主催 原発をなくす全国連絡会

0602反原発 国会大包囲

16:00~ 国会周辺

主催 首都圏反原発連合

・第6回大間原発反対現地集会

日時 6月15日(土)12時~大MAGROCKvol.6

6月16日(日)11時30分~集会・デモ

会場 「大間原発敷地」隣接・一坪共有地

主催 大間原発反対現地集会実行委員会

=もくじ=

みやぎ・脱原発風の会 会員の集い	1P
福島集団疎開裁判	2P
フタバから遠く離れて	3P
さよなら原発in石巻	4P
鳴り砂 アンケート報告	5P
東北電力株主総会	6P
女川だより	7P
最近、気になる動き	7P
インフォメーション	8P
お知らせ	8P

【別冊もくじ】

東電は安全審査軽視+国は未だ 『規制虜』	1P
元裁判長曰く 「遅すぎたかもしれませんが」	4P
お名は和原発アラカルト	5P

【お知らせ】

次号より、風の会の連絡先が変更になります。

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター

レターケース 76

5月29日(水)「女川原発環境保全関し協議会」が開催されます。会場等は、宮城県HP
 でご確認ください。傍聴<監視を!